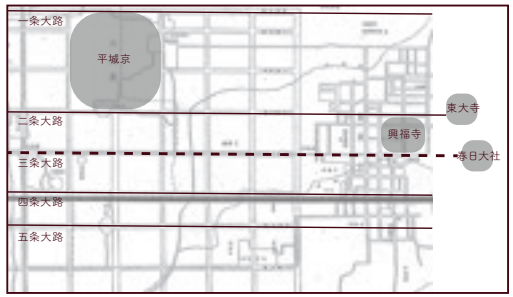
1　三条通り



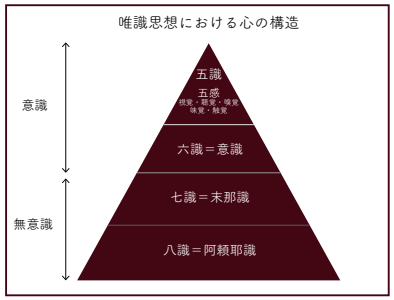
奈良県奈良市の中心市街地を東西に貫くまちの主軸の街路である。
起源は平城京遷都に伴い整備された三条大路で、興福寺、春日大社、東大寺などへと向かう参道として機能きた。
信仰の場へ向かう道として、人々の日常と神聖をつなぐ重要な空間であった。
近世以降、参詣者の増加とともに商家や茶屋が並び、三条通りは次第に商業の場へと変化してきた。
現在では、観光化が進みかつての参道としての機能は薄れている。

2　興福寺

奈良市登大路町に位置する法相宗の大本山である。
669 年、藤原鎌足の病気平癒を願い建立された山階寺を起源とし
平城京遷都に伴い、現在の地に移された。
平安京遷都後も勢力を保ち、中世には南都を代表する寺院として強大な宗教的、
政治的力をもった。近世にはその力は次第に失われるが、
現在では歴史的寺院として観光の対象となり多くの人々が訪れている。
また、野外能の本元とされ、現在も年に二度、能が奉納される。

3　唯識思想

法相宗の特徴は、学問的性格の強い唯識思想をもつことである。
唯識とは、
私たちが見ている世界　＝　すべて自分の心のはたらきによって作りだされたものだと捉える考え方である。
そのため、自らの心をどう整えるかが修行の中心とされる。
五感と意識に加え、末那識・阿頼耶識といった深層の意識を理論化している。
修行によって、迷いの「識」を悟りの「智」へと変化することが理想とし、
心を整える過程そのものが興福寺における修行といえる。

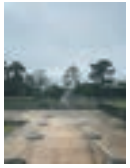


①

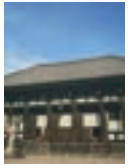
②

③西を見る

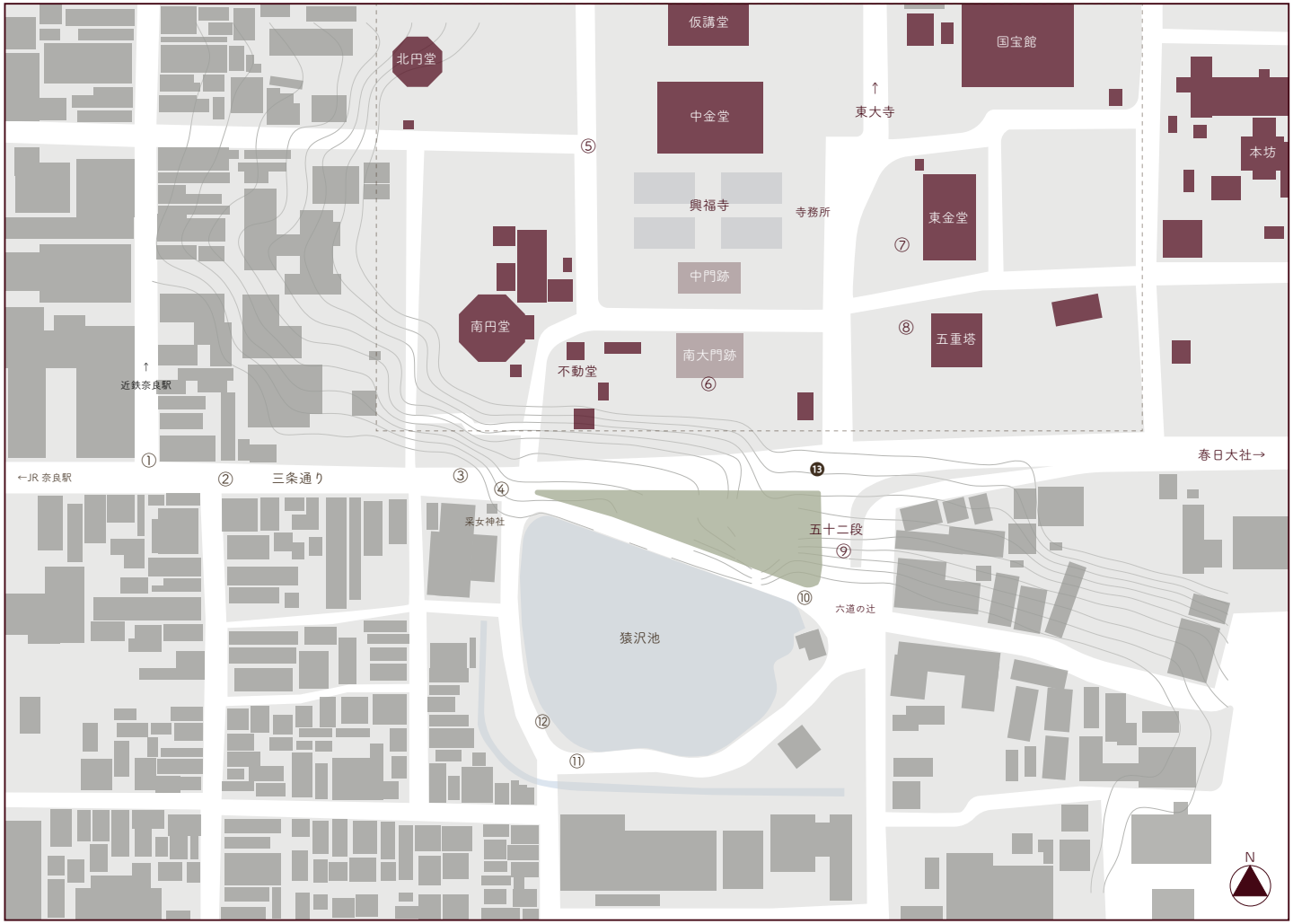
④右手に猿沢池が見える

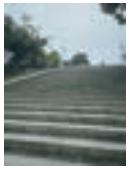

⑤西を見る

⑥中金堂


⑦東金堂

⑧五重塔
現在修復中




⑨五十二段
猿沢池から興福寺へ通ずる階段で、仏門の修行を意味する菩薩五十二位に由来する

⑩西を見る

⑪東を見る

⑫

4　猿沢池

三条通りと興福寺の間に位置する周囲 350m の人工池。749 年に興福寺の放生会のためにつくられた。
放生会とは、仏教の「殺生を戒める」教えに基づき、捕らえられた魚や鳥などを野や池、海などに放して命を救い、生き物を慈しみ感謝する儀式。
興福寺の五重塔が周囲の柳と水面に映し出される風景は、南都八景の一つとされる。
住民や観光客の憩いの場として多くの人に使われている。

外周 350m
面積 7000 ㎡
水量 4000 ㎥
水深 平均 600 ㎜　最大 800 ㎜